

# 宇宙人ズ

仲村 ゆうな

あらすじ

地球で潜入調査を行う宇宙人、田丸光と川島由佳。

中学生になりすまし、日々地球人の生態を調査している。

なぜ同調しないと奇異な目で見られるのか、なぜみんな自分を卑下するのか、なぜ男女が仲良くしてると恋愛関係を噂されるのか。地球人の生態は二人には理解できないことばかり。

宇宙人であることがバレないよう必死で周りに合わせるが、ストレスが溜まる一方。いつそ地球人になってしまえば楽なのではないかとまで思う。

地球人と相容れない二人はいつか自分たちの仲間が待つ星へ帰ることを夢見るが、『宇宙人』は『地球人』に擬態するしかないのである。

登場人物表

田丸光 (14) 中学二年生

川島由佳 (14) 中学二年生

ポロシャツの男

女子 1・2・3

男子 1・2

○中学校・廊下

薄暗い廊下。

田丸光（一十）、窓の外を見る。

光「降りそうだな」

光、振り返る。

と、血まみれの川島由佳（一十）が

立っている。

光「え！」

由佳「ごふっ！」

由佳、血を吐いて倒れる。

光、慌てて駆け寄る。

光「お、おい！ どうした！」

由佳の首元に血が滴っている。

光「まさか……噛まれたのか?!」

由佳「（へラっと笑って）へマ、しちやつ

た」

光「馬鹿野郎！」

由佳「ねえ、お願い」

由佳、光の手にサバイバルナイフ  
を握らせる。

由佳「早く、私が自我を失う前に……」

光「そんな……。できないよ！」

由佳「せめて、あなただけでも生き残っ、

て……」

光の手から離れる由佳の手。

光「お、おい！　しっかりしろ！」

由佳「ぐっ……ぐうっ……」

悶える由佳。

光「う、うわああ！」

光、サバイバルナイフを振り上げる。

○同・校庭

蝉の鳴き声。

○同・廊下

光「……なんだこの茶番」

由佳、勢いよく飛び起きて、

由佳「アカデミー賞もの？」

光「この血は？」

由佳「演劇部から拝借しました」

由佳、ビンに入った血のりを見せる。

光「（ため息をついて）ちゃんと片付けてね」

由佳「はいはい。でも楽しかったでしょ？」

光「いや、どういう設定だった？」

由佳「ゾンビパニックから生き残った男  
女だったがついに女が感染。男は女が  
ゾンビになる前に息の根を止める」

光「よくある設定」

由佳「まあ私たちは生存者でもなければ  
ゾンビでもない、ただの宇宙人なん  
ですけど」

○タイトル

『宇宙人ズ』

○中学校・教室

机を並べた上に寝っ転がっている

由佳と光。

由佳「地球人に擬態してるんですけど」

光「地球人の生態を調査してるんですけど」  
「ど」

由佳「それが任務なんですけど」

由佳、起き上がる。

由佳「地球人は理解できない！」

× × ×

窓枠に寄りかかっている光と由佳。

由佳「どうして地球人は眠い、だるい、疲

れたしか言わないの？」

光「地球人は体力がないんじゃない」

由佳「そんでこっちが元気だっていうと

奇妙なものを見る目で見てくるんだよ」

光「協調性を大事にするからね」

由佳「出ました協調性。ていうかもはや

それは同調性の強要だよ」

光「まあね。協調性は大事だけでも、押し

付けは個人を打ち消すからね」

由佳「そうそう。意見を合わせないとす

ぐ変人扱いだよ、まったく」

光「『みんな一緒』を、この年頃の地球人は特に気にするよね」

由佳「あれは流行ってる、これはみんな持っていない。そんなに一緒がいいかな」

由佳、息を大きく吸う。

由佳「(窓の外に向かって)私はお前らが好きなものが嫌いだし、お前らが嫌いなものが好きだぁー！」

息を切らす由佳。

光「それ一発で宇宙人だってバレるぞ」

由佳「あー！ 星に帰りたい！ 迎えに来てくれないかな」

光「来てはくれないでしょう。自力で帰らないと」

由佳「(ガクツツとうなだれて)ぐわぁー」

由佳、パッと顔を上げて、

由佳「どうして地球人は自分を卑下するの？」

光「ひげ？」

光、髭を撫でる仕草をする。

○同・階段

段違いに座っている光と由佳。

由佳「どうして自分を劣ってる人間だっ  
てわざと言うの？」

光「あー」

由佳「テスト前に勉強してきたのは普通  
にえらいから自慢すればいいのに」

光「全然勉強してないってね」

由佳「いい点取ってもまぐれだよーって  
……。実力だよ！」

光「努力の結晶」

由佳「あとこれは地球人の女子に多いん  
だけど、自分のことブスとかデブとか  
言う」

光「全然そんなことないのにね」

由佳「で、可愛い自分を可愛いって言っ  
たらすぐナルシスト扱いだよ。困った  
もんだ」

光「うんうん。……うん？」

由佳「可愛くってごめーん。自分を好きで  
ごめーん」

由佳、壁にもたれる。

由佳「優秀な宇宙人は自分を卑下するた  
びに心が削れてくよ」

光「ひげ……」

光、猫のひげポーズをする。

由佳「それは『ひげ』」

○同・廊下（夜）

並んで歩く光と由佳。

寝袋を持っている光。

光「地球人の恋愛に対する疑問なんだけ  
ど」

由佳、拍手する。

由佳「ぼい、ぼい。思春期の中学生男子っ  
ぼい」

光「真面目に」

由佳「はい」

光「どうして男女が仲良く話してるだけで付き合ってるって噂が流れるんだろう」

由佳「何組の誰々くんと誰々ちゃん付き合ってるらしいよー、ってやつか」

光「同じ人間、地球人が仲良くしてるだけじゃないか。それを何で男女の区別をつけてあれこれ推測するかね」

由佳「最近の若い地球人はませてると思いますからな」

光「他人の目を無視して好き放題喋ってればすぐ女好きだの男好きだの」

由佳「十代に女好きも男好きもへったくれもあるかい」

光「そんで自然と男女の間に見えない壁が」

由佳「あるね、あるある」

光「人の目を気にして自分が喋る相手を選ぶなんて、地球人はなんだかなあ」

由佳「なんだかなあ」

保健室の前に着く。

由佳「今日の報告会はこの辺で。それじゃおやすみー」

光「おやすみ」

由佳「今日はどこで寝るの？」

光「理科室」

由佳「うへ、物好きー」

光「たまには違うところで寝てみたら？  
いっつも保健室じゃん」

由佳「ベッドじゃないと寝れないの」

光「お姫様か」

由佳「あれ？ 言ってなかったっけ？」

光「保健室のベッドって硬くない？」

由佳「寝袋よりはマシだと思うけど」

光「寝られる気がしない」

由佳「それは硬いベッドの快感を体験してないからだよ」

由佳、保健室のドアを開ける。

由佳「一緒に寝る？」

光「へえっ?!」

由佳「（鼻で笑って）思春期が」

ピシヤリと閉められるドア。

○同・校庭

光、ライン引きを転がす。

由佳の声「もうしばらく直線ー！」

校舎の二階の窓から顔を出している由佳。

教科書を丸めメガホン代わりにしている。

光「（汗をぬぐって）はいよー」

由佳の手には小さな本。

表紙に『JFEOを呼ぼう！』と書かれている。

由佳「もうちよいカーブ意識してー」

光「もうちよい具体的な指示してー」

由佳「やる気あんのかー！ 星に帰るために必要な目印なんだぞー！」

光「いや、これ……」

光、校庭を見渡す。

ぐにやぐにやした白線。

光「合ってる？」

由佳「ちゃんと書かないとDFOから見え

ないでしょおがぁ！」

光「なんだか意味ないような気がしてき

たー」

由佳「意味なんてないよー」

光「ええ？」

由佳「ただの暇つぶしなんだからー」

光「ええ……」

由佳「DFOが迎えに来なくなったって、君

はきつと帰れるよー！」

光「（やけくそになって）ありがとー！」

由佳「（ボソツと）私はもう無理かもしれん

ない」

光「なんか言ったー？」

由佳「君はぁ、大丈夫だぁー！」

光「……なんか『は』っていうのが引っか

かるんだけどー！」

光、ふと校舎の方を見る。

由佳がいない。

光「え……」

光、キョロキョロと周りを見る。

由佳の声「キャツホー！ー！！」

由佳、校舎から走ってくる。

光「うお！」

由佳、光からライン引きを奪い走る。

光「ちよっ！」

由佳、縦横無尽にラインを引き走り回る。

由佳「イエー！ーイ！」

光、慌てて由佳を追う。

光「ちよっ！　後が大変だから！」

○同・廊下（夜）

由佳「いやあ、明日は何しよっか」

光「楽しいことをしよう」

由佳「……なんか、やらし」

光「えええ！」

由佳「あはは、楽しいことね、楽しいこと」

光、立ち止まる。

光「しっ！」

由佳「へ？」

光、慌てて由佳の手を引き教室に入る。

○同・教室（夜）

身をかがめる光。

由佳「なにになに？」

廊下から物音がする。

光「政府の奴かもしれない」

由佳「まさか」

光「僕らが潜伏してるってバレたのかも」

由佳「捕獲しに来たの？」

足音が近づいてくる。

息を止める光と由佳。

懐中電灯を持った人影が窓ガラスに映る。

教室の前を通り過ぎる影。

由佳「バレたらどうなる？」

光「吊るし上げられて石ぶつけられる」

由佳「ひえっ！」

光「宇宙人は迫害の対象だからね」

由佳「逃げねば」

光・由佳、忍び足で教室から出る。

○同・廊下（夜）

懐中電灯を持ったポロシャツの男、  
ぐらりと周囲を見渡して去る。

○同・屋上（夜）

仰向けに寝転がっている光と由佳。

由佳「ふうー。正体隠すのも疲れるなあ」

光「宇宙人の性だね」

由佳「いっそ、地球人になってしまおうか」

光「なんでやねん」

由佳「マジョリティーになった方が楽な

場合もあるよね」

光「魔女？ ビビデバビデ？」

由佳「うん、なんでもない」

由佳、伸びをする。

由佳「産まれた星が違うから無理かー」

光「そう。産まれたときから宇宙人なん

だから、僕らは死ぬまで宇宙人だよ。

それは変えられないけど、僕らは決し

て不幸なんかじゃない」

由佳「うん……」

空をじっと見つめる由佳。

由佳「……あっ！ 流れ星！」

光「どこどこ？」

由佳「うっそー」

光、ムツとした顔で由佳を見て、

光「息を吐くように嘘をつくよね」

由佳「息を吸うために嘘をつくんだよ」

光「……」

由佳「あー、帰りたいなあ。仲間に出会いた

い」

光「会えるよ、きつと」

光、由佳の顔を見て笑う。

光「今は我慢だ」

由佳「我慢かぁー」

笑う二人。

○同・校門（朝）

ポロシャツの男、立っている。

ボリボリと頭を掻いてあくびをする。

生徒「おはようございます」

ポロシャツ男「はい、おはよー」

生徒「先生ー、おはよー」

ポロシャツ男「はい、おはよー」

○同・廊下（朝）

歩いてくる由佳。

反対方向から歩いてくる光。

お互いに気づく。

が、無視してそのまま教室に入る。

○同・教室（朝）

由佳、女子のグループの方に駆け寄る。

由佳「おはよー」

女子1、気づいて、

女子1「あ、おはよー！」

女子2「久しぶりー。おばあちゃん家どうだった？」

由佳「あー、うん」

女子3「てか白くなーい？ 羨ましー」

由佳「そうー？ 全然だよお。太ったし」

光、男子のグループの方に向かう。

光「ういーっす」

男子1「よっ」

男子2「サマーキャンプ行ってたんだって？」

光「あ。おお」

男子1「ちゃんと宿題やってきた？」

男子2「昨日徹夜で終わらせました」

光「俺も俺も」

男女のグループに分かれて喋って

いる光と由佳。

女子2 「あつという間だったよー、夏休

み」

女子3 「ほんとそれ」

男子1 「あー、あと三ヶ月休み欲しい」

男子2 「長すぎだろ」

男子1 「だなー」

女子1 「でもさー、あんま夏休みって楽

しくないよね」

男子1 「夏休みってそんな面白くないよ

な」

一瞬固まる光と由佳。

笑顔を作って、

光・由佳 「……分かるー」

【終】